

第6学年 学級活動（人権）学習指導案

1 主題 ちがいを認め合う

2 主題設定の理由（省略）

3 ねらい

- 自分の中にある決めつけや偏見が差別につながることを理解させる。
- ちがいを認め合って生きていこうとする意欲を高める。
- 友達の意見をよく聞いて、自分の考えを深めたり表現したりする力を高める。

4 指導計画

- (1) これまでの学習 ・道徳科「かおりの決心」（ひかり）・・・・・・・・・・2時間
 ・国語科「星空を届けたい」（光村図書）・・・・・・・・・・5時間
 ・道徳科「勇太への宿題」（光文書院）・・・・・・・・・・1時間
- (2) 本時の学習 ・学級活動「ちがいのちがい」・・・・・・・・・・1時間
- (3) これからの学習 ・道徳科「ピンクのバッグ」（光文書院）・・・・・・・・・・1時間
 常時活動・学級活動「ほめほめシャワータイム」・・・・・・・・・・帰りの会

5 本時の学習

(1) 目標

自分の中にある決めつけや偏見が差別につながることを理解し、一人一人が自分らしさを発揮しながら生きていこうとする意欲を高める。

(2) 普遍的な学習のテーマ 共に生きる力

(3) 展開

学習活動	指導上の留意点
1 文化や性別、障がいの有無などによって分けられているものを挙げ、本時の学習課題をつかむ。	1 身の回りにある「ちがい」やこれまでの自分の行動や発言を思い出させ、どのような「ちがい」があるか見つけられるようにする。
身の回りにある様々な「ちがい」について、考えよう。	
2 「ちがいのちがいカード」を使って、「あってもよいちがい」か「あってはいけないちがい」か考える。	2 「ちがいのちがいカード」を見て、「あってもよいちがい」「あってはいけないちがい」に分け、なぜそう考えたのか理由についても考えさせる。 【ワークシート】
3 それぞれが分けた「ちがいのちがいカード」についてグループで話し合い、考えを発表する。	3 友達の考えを聞き、これまで当たり前に思っていたことや、こうあるべきだと決めつけることが差別につながることを理解させる。【発表】①③
4 本時の学習を振り返り、これからの生活や人とのかわりについて考える。	4 本時の学習を振り返って、「ちがい」は必要かどうか考えさせるとともに、ちがいを認め合うことの大切さについて考えさせる。 【ワークシート】【発表】②③

(4) 評価

- ・自分の中にある決めつけや偏見が差別につながることを理解できたか。 【知識的側面】①
- ・ちがいを認め合い、自分らしく生きていこうとする意欲を高めることができたか。 【価値的・態度的側面】②
- ・友達の意見をよく聞いて、自分の考えを表現することができたか。 【技能的側面】③